

海蔵あくら



四日市市立海蔵小学校
校長室 だより
令和5年6月28日
第4号
文責 校長 柳川 洋史



水難事故から命を守る

暑さも増し、子どもたちも、プール、川、海での遊びや運動、時には家族でのレジャーで、水に触れる機会が多くなる季節になりました。

水遊びや水泳は楽しく、有意義なものである一方、時と場所によっては、命にかかわる危険性が高まる場合があります。

校区内を流れる海蔵川では、過去に水難事故が繰り返し発生していることから、子どもたちには、転落すると危険なので近づかないようにと指導していますが、それでも事故が起きてしまうことがあります。

再度学校でも、身を守る行動について考えさせ、指導していきます。ご家庭でも、水難事故に関わり、放課後や休日での安全な過ごし方について、話をさせていただきますようお願いいたします。



海蔵川の水難事故防止ブイ設置活動

海蔵地区では、過去に起こった水難事故をきっかけとして、地区内を流れる海蔵川岸壁に、約100個のブイが設置されています。

海蔵地区青少年育成協議会の方が中心となり、代々このブイの設置や管理を行っていただいており、現在も活動が続けられています。

川べりには藻などが付いているため、川の中から岸に登るのは大人でも難しく、転落すると大きな事故につながってしまうことがあるため、このブイは、地面に打ち付けたくいにロープでつなげてあり、いざというときにすぐ投げられるようにまとめた状態で置かれています。

毎年、子どもたちの夏休みが始まる前に、ブイの点検と修繕を行っています。今年も6月に、青少年育成協議会や地域の方々、小・中学校PTA、こども育成会、教職員の協働作業が行われました。

作業に参加した人からは、「過去の水難事故を知らなかった」という声や、「危険性を改めて感じた」という声も上がっていました。

事故の教訓を生かし、今後につなげていくために、大切にしていきたい活動だと思います。





『風景』 館 増男
1925(大正14年)
~2017(平成29年)